

# 企画書：次世代睡眠体験空間「EMORE - エモア -」設立プロジェクト

作成日：2026年2月5日

作成者：新規事業開発部 [あなたの氏名]

ステータス：第1次ドラフト（検討用）

## 1. プロジェクトの背景と目的

### 1.1 背景：現代社会における「脳疲労」の深刻化

情報過多の2020年代後半において、デジタルデバイスへの依存による「脳の慢性疲労」が社会問題となっています。2025年の調査（仮定）では、ビジネスパーソンの約7割が睡眠の質に不満を持っており、短時間で深いリフレッシュを得られる空間へのニーズが急速に高まっています。

### 1.2 目的

本プロジェクトは、最新のAI技術とバイオフィリックデザイン（自然回帰デザイン）を融合させた、完全没入型の睡眠カフェ「EMORE」を都心に展開し、\*\*「60分で8時間の熟睡に匹敵する回復体験」\*\*を提供することを目的とします。

## 2. サービス概要

### 2.1 コンセプト

「脳をゼロにする、1時間の旅。」

単なる仮眠スペースではなく、バイタルデータに基づいた「パーソナライズ・スリープ・ジャーニー」を提供します。

### 2.2 主要なサービス機能

機能	内容詳細
AIバイタル診断	入店時にウェアラブル端末を装着。心拍、脳波状態から最適な「入眠プログラム」を自動生成。
感覚同期カプセル	振動、温度、調光、音響（ハイレゾ自然音）がユーザーの呼吸と同期し、強制的に深いリラックスへ誘導。

目覚めのハーブティー	覚醒のタイミングに合わせ、AIが最適な成分を配合したアフタードリンクを提供。
------------	--

### 3. ターゲット層と市場分析

#### 3.1 ターゲットユーザー

- コア層: 20代～40代のITビジネスパーソン。昼休憩や移動の合間に効率的な休息を求める層。
- サブ層: メンタルケアを重視するウェルビーイング層。デジタルデトックスを目的とする人々。

#### 3.2 競合との差別化

- 既存の仮眠室: 設備のみ(ベッド、暗い部屋)の提供。
- EMORE**: テクノロジーによる「確実な入眠」と「すっきりとした目覚め」のデータ裏付け。

### 4. ビジネスマodelと収益計画

#### 4.1 収益源

- 利用料: 60分 3,500円(税別)／90分 5,000円(税別)
- 月額サブスクリプション: 月4回プラン 12,000円
- 物販: AIが推奨した枕、アロマ、サプリメントの販売

#### 4.2 損益分岐点のシミュレーション(1店舗あたり)

- 初期投資: 4,500万円(内装工事、AIシステム、専用カプセル10台)
- 月間固定費: 250万円(賃料、人件費、光熱費)
- 目標月商: 450万円(稼働率65%想定)
- 投資回収期間: 約24ヶ月

### 5. ロードマップ

- 2026年3月: コンセプトモデルの完成・プロトタイプテスト
- 2026年5月: 資金調達(シリーズA)および物件契約
- 2026年8月: 渋谷・丸の内エリアにて1号店オープン
- 2027年以降: フランチャイズ展開、企業向け「福利厚生パック」の販売

### 6. 期待される効果とリスク

#### 6.1 期待される効果

- 利用者の生産性向上による社会的損失(プレゼンティーアイズム)の削減。
- 「脳疲労ケア」という新しいウェルネスカテゴリーの確立。

## 6.2 想定されるリスクと対策

- リスク: 安全性の懸念(カプセル内での急病など)。
- 対策: 全カプセルに生体センサーを配置し、異常検知時は即座にスタッフが介入するシステムを構築。

---

## 7. 結論

本プロジェクト「EMORE」は、2026年の最重要キーワードである「脳のウェルビーイング」に直撃する事業です。単なるリラクゼーションの枠を超え、データに基づいた「パフォーマンス最大化」のインフラとして成長する可能性を秘めています。

以上、本案をご検討いただけますようお願い申し上げます。